

コスタリカにおける体操競技指導について

服部 正 派遣国：コスタリカ 職種：体操競技 派遣期間：2018年10月～2020年10月

私は2018年10月～2020年10月までの2年間の予定で、中米の国コスタリカへ体操競技指導のため派遣された。残念ながら2020年3月にコロナウイルスによる一時退避のため帰国し、そのまま任期満了になり活動の終了を余儀なくされた。

私が派遣された部署はコスタリカ体操連盟で、派遣要請内容は以下の2つである。

- ① コスタリカでの体操競技普及・発展
- ② コスタリカ体操競技技能の向上

コスタリカは発展途上国とはいえ、社会制度やインフラがかなり進んだ国で、物にあふれ、人々は自由に余暇を楽しみ、祭りにいそしみ、トヨタやホンダのSUVの大型車が道にあふれんばかりに走り回っているような国である。社会の仕組みがきちんとできている国で要請内容を進めていく切り口を探すことはなかなか難しく、悩んだ時期もあったが、そんな中でいくつかのヒントを見つけることができた。

まずは、体操競技の普及・発展についてである。コスタリカの学校教育では教科としての体育は存在するが、体操競技は扱われていない。そのため、一度も体操に接することなく卒業してしまう生徒が大半である。ところが、ある地方への巡回指導の時、一部の生徒が初心者なのにとっても上手に倒立や側転をする場面に出くわした。近くにいた体育指導教員が低学年には体力を高める運動の一環として体操を取り入れていることを教えてくれた。ならば、将来体育の教員になる大学生に指導し、彼らに体操の要素を取り入れた運動を広めてもらうのが一番の早道であり、普及の手がかりになると感じた。

次に技能の向上についてである。コスタリカの体操選手は、ほぼすべて体操クラブに所属していて、お金を払って体操を学んでいる。コーチたちは職業として指導しているコーチのプロで、それぞれが自分や所属ジムの指導法を確立している。それを切り崩していくのはとても難しく、またその必要性も感じなかった。活動の中で分かってきたのは、コスタリカでは世界基準のルールの中で競技せず、また、そのルールをよく知らない選手やコーチ達がたくさんいること。また、競技のための基礎体力作りを重視しているが、とても効果的とは言えないこと。直接的な技能の指導ではなく、ルールや効果的な基礎体力作りから関わっていけば、コーチ達の自尊心を傷つけず、将来的に技能向上につながっていくのではないかと感じた。

